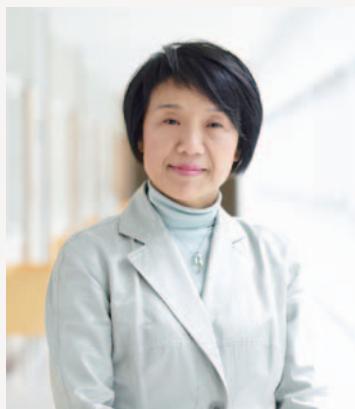


3月に入ると、土から芍薬や水仙やチューリップが芽吹く。赤や黄緑の芽の先端を見せつ少しづつ成長していく。そして3月は一年間で最後の授業を迎える。いつものように生徒がスピーチを発表する。中学一年生の3学期のタイトルは「私の紹介したい本」。その日の担当者は「世界から猫が消えたなら」という本を紹介した。「ほとんどの大切なものは失われてから気づく。青年の亡き母が言つた言葉が一番好き、深い本です」と紹介した。真剣に傾聴している静寂なひと時を生徒たちと共有する。興味や感動の芽が心に芽生えたかのよう。「本当にいい言葉だね」、「私もその本読んでみようかな」などなことを、それぞれが思つているのだろう。最後の授業でどうしても紹介したいと生徒が『グラスホッパー』を紹介した。私はスピーチの後、発表者に聞きたいことはないかと誰かにあてるが、その日は「私も聞きたい」といくつも手が上がった。「なぜ『グラスホッパー』っていう題名なのですか」。それに応える発表者と質問者のコミュニケーションが成り立つ。それをみんなでともにするのも楽しい。

国語の授業の3分間スピーチは私が愛知淑徳に就職して36年、ずっと変わらずに続いている。私にとってこの時間が生徒との交流の時。「あ、そうなんだ」と胸に感動の芽が

膨らむこともある。思いつきりの力と表現が發揮されたり、何気ない言葉や視点に出会う少しづつ成長していく。そして3月は一年間で最後の授業を迎える。いつものように生徒がスピーチを発表する。中学一年生の3学期のタイトルは「私の紹介したい本」。その日の担当者は「世界から猫が消えたなら」という本を紹介した。「ほとんどの大切なものは失われてから気づく。青年の亡き母が言つた言葉が一番好き、深い本です」と紹介した。真剣に傾聴している静寂なひと時を生徒たちと共有する。興味や感動の芽が心に芽生えたかのよう。「本当にいい言葉だね」、「私もその本読んでみようかな」などなことを、それぞれが思つているのだろう。最後の授業でどうしても紹介したいと生徒が『グラスホッパー』を紹介した。私はスピーチの後、発表者に聞きたいことはないかと誰かにあてるが、その日は「私も聞きたい」といくつも手が上がった。「なぜ『グラスホッパー』っていう題名なのですか」。それに応える発表者と質問者のコミュニケーションが成り立つ。それをみんなでともにするのも楽しい。



土から芽吹くような感動の体験をもち続けたい！

でも、教師としてのこの感動の体験も必ず終わらが来る。土から芽吹くような感動の体験を持ち続けたい。その思いが、今、私にバイオリンのレッスンを継続させている。あー告白してしまった、独学でバイオリンをやつてることを。息子たちのレッスンを思い出し、毎日、少しづつバイオリンを手にした。できな

い“自分に向き合いながら、目標であったビバルディの協奏曲 in A Minorが弾けるようになった。子どものレッスン方法に学び毎日弾いていると、今まで弾けなかつたフレーズが弾けたり、何気ない美しい音に出会える。その時心に感動の小さな、小さな芽が膨らむ。60にしてやつと。でも、それがうれしくて、一步前へ進む。